

第7回海と漁業と生態系に関する研究集会

水産資源の資源評価手法

日時：2024年2月22日（木）10：00～17：30（受付9：30～）

場所：水産研究・教育機構 横浜庁舎（ハイブリッド形式）

共催：水産研究・教育機構 水産資源研究所

コンピーナー：宮川光代・市野川桃子（水産機構資源研）

問合せ先：miyagawa_mitsuyo88@fra.go.jp（宮川）

参加登録：<https://forms.office.com/r/arD4JnA0Ku> 締切2月15日（木）



- | | | |
|--|--|-------------|
| 1. 挨拶 | ：木村伸吾（一般社団法人水産海洋学会長） | 10：00～10：05 |
| 2. 趣旨説明 | ：宮川光代（水産機構資源研） | 10：05～10：10 |
| 3. 基調講演 | ：TAC 対象種の資源評価・管理手法の変遷について
平松一彦（東大大気海洋研） | 10：10～11：00 |
| 4. 話題提供 | ：※1 課題 25 分＋質疑応答 5 分
座長：岡村 寛（水産機構資源研） | |
| (1) 鯨類における資源量推定手法 | 袴田高志（日鯨研） | 11：00～11：30 |
| (2) 時空間統計モデル（VAST）を用いた資源量指数の推定 | 橋本 緑（水産機構資源研） | 11：30～12：00 |
| | （休憩） | 12：00～13：00 |
| (3) 近親標識再捕（CKMR）法を用いた資源量推定 | 秋田鉄也（水産機構資源研） | 13：00～13：30 |
| | 座長：市野川桃子（水産機構資源研） | |
| (4) VPA 時代に終止符を！状態空間評価モデル SAM のポテンシャルに迫る | 西嶋翔太（水産機構資源研） | 13：30～14：00 |
| (5) SS を用いた資源量推定 | 半沢祐大（水産機構資源研） | 14：00～14：30 |
| (6) CASAL を用いた南極海のメロ類資源評価とそれに基づく漁業管理 | 奥田武弘（水産機構資源研） | 14：30～15：00 |

(休 憩)

15 : 00～15 : 15

座長：黒田啓行（水産機構資源研）

(7) 余剰生産モデルを用いた資源量推定

～資源評価モデルと資源管理方式内の推定モデルとしての観点から～

北門利英（海洋大）

15 : 15～15 : 45

(8) 利用可能なデータが乏しい資源の資源評価手法のレビュー

宮川光代（水産機構資源研）

15 : 45～16 : 15

(9) 資源評価・管理プロセスにおける生態系モデルの運用について

小柳津 瞳（水産機構資源研）

16 : 15～16 : 45

5. 総合討論

16 : 45～17 : 30

開催趣旨：2020年に漁業法が改正され、我が国の主要な水産資源について最大持続生産量（MSY）に基づく新たな資源管理が導入された。資源管理における意思決定において、資源評価は資源の状態に関する重要な情報を与え、国際的にみて遜色のない科学的・効果的な資源評価手法の適用が求められている。我が国の主要な水産資源の多くはコホート解析（VPA）と呼ばれる伝統的な手法に基づいて資源評価がなされてきた。しかし世界に目を向けると、資源量推定の方法にVPAが用いられている資源はむしろ少数で、それぞれの資源の特性やデータの利用可能性にあわせて多種多様な評価手法が用いられている。そこで本研究集会では、VPAに限らない様々な資源評価手法のレビューと適用事例を網羅的に紹介していくことにより、我が国の水産資源の評価のキャパシティーを広げることが目的とする。まずは、個体群動態モデルに依存しない手法（目視調査・近親標識再捕法・VAST）、VPAよりも柔軟な推定が可能な統合型資源評価モデル（SS, SAM, CASAL）を紹介する。さらに少ないデータを用いたり、生態系を考慮した場合の資源評価手法についても紹介する。総合討論では各手法のデータ要求量や特徴などをまとめ、日本の資源でこれらの手法を適用できる可能性について議論する。